

日本民間生薬検定試験問題－1【講師級】（平成30年12月2日実施）解答と解説

問1 次の生薬名の読み方を（ ）内にカタカナで答えなさい。

地黄（ ジオウ ） 柴胡（ サイコ ） 白朮（ ビャクジュツ ） 茴香（ ウイキョウ ）

蒼朮（ ソウジュツ ） 烏頭（ ウズ ） 附子（ ブシ ） 山梔子（ サンシシ ）

普段見慣れない漢字があるので一度しっかりとその読み方を記憶しましょう。辞書で調べるのに必要です。

問2 次の植物から調製される生薬名を下記より選び、（ ）内に答えなさい。

センブリ（ 当薬 ） ホソバオケラ（ 蒼朮 ） リンドウ（ 竜胆 ）

トチバニンジン（ 竹節人参 ） イヌサフラン（ コルヒクム ）

五味子、 牡丹皮、 蒼朮、 白朮、 ロートコン、 人参、 当帰、 竜胆、

コルヒクム、 川芎、 当薬、 竹節人参、 茴香、 地黄、 サフラン、 芍薬

基原植物名と生薬との関係は基本的な知識として必要です。

問3 次の成分を含有する植物を下記より選び、その番号を（ ）内に答えなさい。

但し、答は1つとは限りません。

アルカロイド（ 9 14 17 ）

サポニン（ 7 16 10 ）

イヌリン（ 10 ）

苦味配糖体（ 2 4 ）

ペオニフロリン（ 6 15 ）

① ベニバナ ② サフラン ③ ウイキョウ ④ センブリ ⑤ ホソバオケラ ⑥ シャクヤク

⑦ オタネニンジン ⑧ トウキ ⑨ トリカブト ⑩ キキョウ ⑪ オケラ ⑫ イノンド

⑬ ダイウイキョウ ⑭ ベラドンナ ⑮ ボタン ⑯ ミシマサイコ ⑰ ヒヨス

アルカロイド、サポニンや苦味配糖体は多くの植物に入っており、共通した効果を示すことが多いものです。

イヌリンは植物には多く含まれておらず特別のグループに入っています。

ペオニフロリンはシャクヤクとボタンに共通した成分として大切なものです。

問4 次の設問に答えなさい。

(1) トリカブトの塊根をオートクレーブなどで温度と時間を調節して減毒化して作られる

生薬はなんと呼ぶか？ **加工附子**

トリカブトの塊根には猛毒成分が含まれているため、現在では上記のように減毒化した加工附子を使用することが多い。

(2) オケラ、ベニバナ、ホソバオケラの3種の植物に共通するものは何か？ **キク科**

生薬としては異なるものですが、基原植物は同じキク科です。

(3) 生薬の「ニンジン」と「キキョウ」は外見が大変似ているが、それを区別するために

用いられる試薬はなんと言うか？ **ヨウ素試薬**

ニンジンにはデンプンが入っているが、キキョウには入っていないのでヨウ素試薬によりニンジンだけが陽性を示すので区別できます。

(4) 根や根茎などを薬用部分とする乾燥しにくい生薬を調製する際に、熱湯に少時つけて

乾燥を早める方法が使われる。この乾燥法とは何か？ **湯通し**

デンプンなどを多く含有している乾燥しにくい生薬の乾燥を早める方法として知られています。

問5 次の文章の内容が正しいものには○を、誤りのあるものには×を、()内に答えなさい。

(×) ボタンとシャクヤクは同じ科、同じ属の植物で両方とも根皮を薬用部分として用いる。
根皮を薬用部分とするのはボタンで、シャクヤクは根を薬用部分とします。

(○) リンドウとセンブリは同じ科に属する植物で、それらから調製される生薬は共に苦味
健胃薬として用いられる。

(×) ロートコンはアルカロイドを含有し、劇薬なので医療用とされ、その生薬は神農本草経
では上薬とされている。神農本草経では下薬に分類され専門的知識を持った人が扱うものです。

(×) ベニバナの色素成分のうち、赤色は水溶性であるが、一方の黄色は水に難溶性である。
黄色の色素の方が水溶性で、赤色色素は水に難溶性です。

(○) サフランの柱頭に含有している色素のクロシンはクチナシの果実にも含有されている。

問6 10月28日に行ったあなたのプレゼンテーションで取り上げた植物について答えなさい。

(1): 植物の和名 ()

(2): 植物の薬用部分 () 複数ある場合には1つでよい

(3): あなたがプレゼンテーションで一番伝えたかったのはどのようなことか？